

3 水源環境の保全に関する研究

テーマ1 相模湖・津久井湖の水質汚濁の実態解明

テーマ2 水源河川における生物多様性の解明

テーマ3 大気環境に係る丹沢ブナ林の保全に関する研究

[総合評価とコメント]

- 水の安全は、飲料水を中心として住民の重要な関心事となっている。本研究課題は、水道水源としてのダム湖水質のみならず、流域管理の視点から取り組もうとするもので、重要性の高いテーマである。
テーマ1では上流の山梨県内も含めた広範囲な調査を重ねてきており、既に多くの成果が上がってきている。
テーマ2では、県民参加型の調査を取り入れている点に特徴があり、意欲的な取り組みといえる。20年度以降の具体的な成果が期待される。
テーマ3は山間部の森林保全を対象としており、かつては測定データが乏しい状況にあったが、山頂における測定局設置などの積極的な取り組みが見られている。
全体として着実な成果が上がっているといえ、今後にも期待される。
- テーマ1については、これまでの結果として従来の排水流入によるものとは異なるタイプの汚染の寄与が見えてきています。テーマ上は実態解明ですが、実態が明らかになると合わせて対策についてもお考えいただきたいと思います。
テーマ2では、各対象河川の生物多様性の実態を明らかにすることはもちろん有用ですが、県民参加型の調査を広く行う体制（組織作り）を積極的に進めていただけると、県民の意識啓発という面で水環境保全を進める上で良い方向に進むのではないかと思います。
テーマ3については、人為的にコントロールできそうな衰退原因のひとつとしてオゾンが挙げられていますので、オゾン濃度をどの程度まで下げることができればブナ林の衰退がどの程度に収まるのかといった観点からの検討もお願いしたいところですが、難しいでしょうか？
- ブナ林の保全対策については、対照群として「健全にブナ林が維持されている地域」を設定し、それとの比較をすべきである。
- いずれも県民の関心が高いテーマである。
テーマ1は対策につなげるストーリーを想定して、不足の無いデータ収集を計画していただきたい。
テーマ2は成果の積極的な公表を期待する。
テーマ3は地形等の固有の問題もあると思うが、共通の課題もあると思うので、同様の課題を抱えている自治体との連携の中で進めてほしい。保護対策として、オゾンの低減が期待できる資材を探すのは現実的に難しいのではないか。
- 3テーマとも生態系の保存に関連した重要なテーマであるといえる。
テーマ1：富栄養化のメカニズムは大変複雑なようだが、解明が望まれる。自然由来の物質の影響が大きいのであれば、将来は水生植物等を用いた負荷の軽減についても、考慮が必要ではないか。
テーマ2：普段目に付きにくいのが、生物多様性の問題は一度変化が進むと、元に戻すのが困難なことが多いので、地道な努力が求められる。県民の参加を得るのは、意識を高める上でも有効であると考えられる。
テーマ3：ブナ林が枯れるというのは、生態系の保存にとって大きな問題である。生物への影響を調べるのは時間がかかるが、解明が期待される。
- 昭和50年代中頃の以前、以後の自然界由来のNとPの負荷量についての議論ができないであろうか。人工源に大気由来のNを挙げているが、近年の大気環境の改善傾向を組み込んで議

平成19年度環境科学センター研究課題評価結果

論をする必要がある。容易なことではないが、汚染実態を改善する提案までとりまとめられれば素晴らしい。生物多様性の研究は、地方自治体ならではの地道な取り組みであり、継続的推進が望まれる。

(数値的評価)

★評価者6名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉					
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (1人)	4 (4人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○優先性	5 (1人)	4 (2人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)	
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (1人)	4 (4人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○計画の妥当性	5 (1人)	4 (2人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)	
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (0人)	4 (4人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)